



一般社団法人日本スクエアダンス協会

2020年9月1日

## 新型コロナウイルス感染症防止対策と例会再開に関するメッセージ 『チャレンジ & チャンス』

一般社団法人 日本スクエアダンス協会  
会長 沖吉 和祐

緊急事態宣言が解除され、新しい生活様式が示され、社会経済活動の水準が段階的に高められています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は止まらず、WHO（世界保健機構）は、「過去の緊急事態に比べて最も深刻な状況」との警告を発するなど予断を許さない状況です。

スクエアダンス界では、感染症拡大の影響により2月以降、世界中の活動が止まりましたが、7月から台湾で活動が始まり、他の地域でも再開の動きがあります。

S協では、6月3日「例会再開に当たっての指針（留意点）」を提示し、S協ニュース7月号で紹介いたしました。この指針を参考に、我が国でも感染者の少ない地域で、比較的会員数が少なく「3密」を避けることができるクラブから、例会を再開したとの報告をいただいています。「感染しない、感染させない」を大前提に、会員の皆さんの合意のもと例会を再開、新しい日常でのスクエアダンスへの一歩を踏み出していただきました。

スクエアダンスは、手を取って踊るのが標準的なスタイルですが、会員の安心と繋がり観点から、「3密」対策に合わせてノーハンズや小道具を利用したダンスの試み、ラウンドダンスではシャドウによるソロダンス、カントリーダンスの活用、オンラインによる特別例会や役員会の開催、さらには会員の近況集の発行など様々な工夫がされています。この状況を永く続けることには限度がありそうですが、仲間に会え、ダンスができたことへの会員の満足は大きかったとお聞きしています。活動再開に向けての皆様の涙ぐましい努力に、敬意と感謝を申し上げます。

しかし、ここで改めて認識いただきたいことは、どのような創意工夫をしても、今は、事前の検温、マスクの着用、小まめな換気、チップごとの手洗い・消毒の励行、フィジカルディスタンスへの配慮が不可欠だということです。このことは肝に銘じてください。

コロナ禍のもとでの「ダンスプログラム」をご理解いただくため、先にお示しした[「留意点」の補足](#)を技術委員会で整理しました。ご参考にしてください。

各地域における感染状況は、日々変化しており、再開した例会を中断せざるを得なくなったクラブもあります。また、秋から冬にかけての感染拡大が心配されます。感染源になることは何としても避けたいところですが、コロナを克服し、コロナと共生する新日常に向けて、スクエアダンス仲間の絆を強く、広くするための取り組みを、共に進めて参りましょう。

6月の総会でS協の体制が決まり、さらに1期会長を務めさせていただくことになりました。まず、全国のスクエアダンス活動がどのように行われているかを、統括支部、都県連、クラブの協力を得て把握し、新しい専門委員会では、今後の取り組みを見据えて事業計画の見直しを行います。さらに、感染が落ち着いた段階で、皆様のご意見を聞く臨時総会を計画します。コロナ禍を単にマイナスとして捉えるのではなく、少子高齢化社会における「スクエアダンスの復活」、「新しい普及方策の確立」に果敢にチャレンジする絶好のチャンスにしようではありませんか。会員の皆様のご協力をお願いいたします。